時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には毎號詳細なる商況物價の

時事新報

第三千百六十一號
明治廿四年十月十六日　金曜日
舊暦辛卯九月十四日（乙亥）
日　出午前五時四十九分　入午後五時四分
月　出午前四時三十四分　入午前三時四十三分
滿潮　午前三時四十八分　午後四時十六分
（西暦一千八百九十一年）

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し

一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓○月曜日休刊

○時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるのみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

内閣更迭は頻繁を厭はず

内閣の組織をして強硬有力ならしめんとは我輩の兼てより希望する所なれども今日の實際に於て果して其實を得べきやと云ふに先づ以て望なしと云はざるを得ず一昨年の交迭に黒田伯退きて山縣伯出で又本年の交迭に山縣に代りたるものは即ち今の松方内閣にして一兩年の間に三變したるのみとなれども何れの内閣が果して實際に強有力なりしやと云ふに皆共に兄たり難く弟たり難しの間にして是ぞと云ふ出色のものなく假令ひ今後第四變の更迭あるも形勢は依然たる可しと我輩の竊に豫言する所なり世人は今の政府を目して情實政府と云へり情實政府と云へば其情實の病根は政府の仕組に宿して其仕組さへ改良すれば隨て病は去る可きに似たれども元來政府は人を以て組織するものにして政府を數へ盡せば政府なく唯人あるのみなれば今の情實政府の人にして悉く去り盡すに非ざれば其病根も亦去る可らず然るに其情實は朝夕の故に非ず維新の當初より二十餘年間次第に發育して以て今日に至り既に人に附着したるものなれば其人の間に行はるゝ内閣の組織に難縱を免れざるは誠に睹易き數にして今後幾回の交迭あるも此情態にして面目を變せざる限りは更に甲斐ある可らず例へば從來内閣に更迭ある其度びごとに新方針云々の談は毎度聞く所なれども内閣は度々新なりと雖も其方針の毫に新なるを見ざるは何ぞや即ち[illegible]るが爲めにして其人既に新ならざれば[illegible]るを得べからず固より當然の勢なりと[illegible]然らば今後内閣の更迭は全く無用なるやと云ふに又然して然らず世間或は政黨内閣の有害を說く者なきに非ずと雖も理窟上の利害論は姑く別として政治社會將來の成行を推測すれば政黨内閣は到底必至の勢なるが如し今日の處にては民間の政黨も尚は幼稚の域を脫せずして四分五裂更に統一する所なきが如くなれども俗に云ふ人の子も三年たてば三歲兒になるの諺に洩れず今後次第に政治上の錬磨を經て眞成の團體を成すと共に情實政府の長老もいよ〳〵老して假令ひ生理上に健全なるも政治上の運動に堪へざるの身の上と爲り他より促さずして自から退くの日ある可し即ち政府中に維新以來の情實を一變して政黨内閣の成るを告るの日なれども扨茲に要用なるは其一變の機會を圓滑ならしむるの注意なり凡そ人情の常として爰に好地位なれば取て之に代らんとする者多きと共に其地位に在る者は永く留らんとするの慾なきを得ず政治上の地位の如く榮擧權勢世俗の耳目に觸れ易くして自から人の羨望を惹くものに於ては殊に甚だしく内閣更迭の困難なる所、時に由りては意外の變なきを期す可らず隨分恐る可きものと云ふ可し故に今より此邊に注意して變更の機會を滑にせんことを謀れば内閣の更迭に當り從來の如く其部内のみに閣員の後任者を求むるの風を止め政府部内の者と民間政黨中の重なる政治家とを程々に調合して所謂聯合内閣を組織し以て次第に政黨内閣に漸進するの工風なれども今日唯今の事情に於ては突然民間の人物を擧るとも難かる可ければ差向きの一策として純然たる政黨内閣に達する第一着歩なる彼の朝野聯合の内閣を組織する其準備に心を用ひたらば或は實際に行はるゝこともある可し其法は他なし唯今後は内閣の更迭に重きを置かずして其頻繁を厭はざるに在るのみ今日の内閣更迭と云へば固より情實部内に行はるゝものにして幾回の更迭も更に奇觀なきは勿論なれども其中に亦自から變化の實なきに非ず現に過般の更迭にも新閣員に二三の新人を見て事情少しく變じたる所なるを卜す可し或は此新内閣には黒幕云々の沙汰もありて内部の情實は免れざる可しと雖黒幕の後見とても左程に永續す可きものに非ざれば自今以後の更迭には更に新人の多きを加へて今の人々が從來政府部内の席順に於て第二流とも云ふ可きものならば今より後は更に第三流四流にも及ぼし而して其首領の總體に一名の長老を推すの慣行ともあらば時機に應じて朝野の聯合を作るも容易にして果ては遂に政黨内閣の夢を實にするにも至る可し故に今日の策は内閣の更迭に重きを置かず其頻繁を厭はずして在朝の人も在野の人も共々に此一點に注目し苟も機會さへあれば其更迭を促すに躊躇せざるに在るのみ或は内閣の更迭頻々にして其方針さへも定むるの暇なきとは之が爲め國運の進步に容易ならざる影響を及ぼす可しとの說もあれども内閣一時の方針の如きは決して國運の上に影響するものに非ず此事に就ては自から說あり之を他日に讓る

官報

○海軍省告示第八號

海軍兵學校機關生徒九名召募候ニ付本年八月年齡十六年以上二十年未滿（明治四年十月ヨリ同八年九月マテ出生ノ者）ニシテ出身志願ノ者ハ左ノ志願者心得ニ依リ本年十二月一日限リ海軍兵學校長ニ出願スヘシ

明治二十四年十月十五日
海軍大臣子爵　樺山資紀

（志願者心得は略す）

雜報

○パーチル氏の略傳（昨日の續）　千八百八十一年十月十三日パーチル氏がキルメインヘムの獄舍に繫がるゝや否や政府は愛蘭の土地同盟を不法なる團體として禁壓したり氏は翌八十二年五月二日同志の士ダロン、オーケリー等と共に全く放免せられしが其後間もなくしてフエニックス公園に於て新大守カヴエンヂッシ氏を暗殺したる者あり愛蘭の良民は其擧の穩ならざるを咎め從來愛蘭人民の不幸を憫察して其運動を助けたる志士も皆其暴行を非難せしかば愛蘭黨の領袖なるパーチル、ダロン、ダヴイット氏等は共に署名したる宣言書を發表して二三迷狂者の暴行より愛蘭をして悲しむべき境遇に陷らしめたる不幸を痛嘆し併せて人民に告ぐるに正道を踏むべき旨を以てしたり而して襲に解散を命せられたる土地同盟は名を國民同盟と改めて再興しパーチル氏を首領と仰ぐに至れり千八百八十五年六月九日グラッドストーン氏の内閣倒れ保守黨の首領ソールズベリー侯は代りて新内閣を組織しパーチル派の爲めに大に盡す所あらんとしければ同年の終りに開きたる總撰擧にはパーチル派が保守黨を援けて活潑なる運動を爲したるため自由黨の勢力を殺ぐに至りたれ共翌八十六年國會開會の時に及んで保守黨内閣はパーチル派との内約に背き鎭壓案を呈出したるを以てパーチル派はグラッドストーン氏の自由黨に應じて保守黨内閣を倒しグラッドストーン氏をして再び總理大臣の職に就かしめたり今や愛蘭の自治問題は英國政治社界の一大問題となり自治黨議員の進退如何に依て内閣の運命を決するが如き有樣を呈しグラッドストーン氏は愛蘭の爲に頗る大切なる自治案を提出せんとしたりしに自由黨の名士チヤンバーリンヘーチントン等は之に反對し同案の議院に出づるに及んでグ氏の意見を贊せざる自由黨員は保守黨と聯合して之を排斥しグ氏の内閣も遂に倒るゝ事となりぬ爾來相往來して自治案を通過せしむるの策を講じ奔走盡力中倫敦タイムス新聞はパーチル氏を始め愛蘭自治黨の領袖等がフエニックス公園暗殺事件に關係ある證據物を得たりとて之を揭載し痛く攻擊を加へたれども最初パ氏は更に其冤罪を訴へざりしを以てタイムスの記事を信じ氏を非難する者あるに至りしかば遂に一昨年國會に於てパーチル事件審問委員を組織し其事實を取調べしめしにタイムスの所謂證據物なるものは僞造なりし事判然せし故氏の冤罪全く晴れて一層聲望を增し愛蘭の自治黨員は勿論米國に於ける愛蘭人民も氏の勝利を祝して喜ぶ事一方ならず又グラッドストーン氏は屈せず撓まず部下を指揮してパーチル派と共に自治案の目的を達せんとし近年英國人民中にも其意見を贊成する者少からず國會議員補欠撰擧を執行する毎に殆んどグラッドストーン派候補者の當撰を見るが如き有樣なれば自治案を通過するも遠きにあらざるべしとて愛蘭

の人民も大に前途に屬望し
益々盛なりしと雖ども前年
の判決に依りて大に名譽を
氏が有夫の女に私したるを
しマッカーシー氏等は同志
を絕ち別に一派を組織して
勢力を回復せんとて愛蘭の
などには自から陣頭に立ち
を制する能はざりき當時愛
イエンの兩氏は米國より本
パーチル氏及び反對派の重
に招き兩派の再び合同せん
れどもパーチル氏は依然愛
し反對派は氏を首領として
議熟せずして止み爾後氏の
婦オーシヤ夫人と結婚せし
意を惹くべき報道も無かり
至れり行年四十五歲、西洋
秋に富み將來風雲に際會し
機會もありしならんに未だ
の客となるに至りしは惜し
愛蘭人民はパーチル氏が數
る偉功を記臆して永世忘る
氏の如きは蓋し現十九世の
ざるべし

○三年度歲出入增減　明治
行ひたるは本年迄都合三回に
十年、第二回は去る十九年、第
るが扨て此間政府の會計は如
やと云ふに無論漸次に增額を
ども其增額は經常費に減じて
を示したるが如し即ち本年度
比するに陸軍々事費に六百
二百九十四萬餘圓各裁判所等
費に三百八十七萬餘圓等事
額したる總計は五百七十九萬
二萬餘圓を增したり而して
大藏、陸軍、海軍、文部、警視
者なり又本年度の豫算額を
業費に一千百十二萬圓餘を
十九萬餘圓、海軍々事費に二
八十三萬餘圓會計補助費に
十七萬餘圓、文部諸學校費に
經常費に於て減じたるは凡
閣に二十一萬餘圓大藏省に
五萬餘圓遞信省に百二十九
圓府縣に五十一萬餘圓等の
二十餘年間甚だ好結果を得た

○砂鐵岩鐵の產出高　我國に
陽、山陰一帶の山脈にして岩
產すれども岩鐵は冶金の手數
しは大抵砂鐵にして現に昨年
五百七十四噸、岩鐵は僅に九
右の如くなれども砂鐵は元來
に今後若し製鐵の業を盛んに
點に力を用ゐざるべからず其筋
在るよし今昨年度に於ける重
如し